

# 香山宗撰『大乘三論師資伝』

伊藤隆寿

## 解題

数量 一帖  
装幀 粘葉装  
紙質 楮紙  
大きさ 縦二四・三センチ 横一五・二センチ  
紙数 表紙共三十八枚  
行数 一紙七行  
字数 一行十八字〜二十四字  
刊写 康永三年（一三四四）写本  
筆者 憲朝

本書は、真福寺文庫（名古屋市中区）の所蔵にかかるものである。内題下に「香山宗撰」とあり撰者が示されているが、この香山宗は、元興寺円宗（一八八三）であろうことを、かつて推察した<sup>(1)</sup>。従って、その成立年代も、本書において闡説す

る日本の人々、たとえば、道昌（七九八―八七五）・願暁（一八七四）などの年代を考慮すれば、大体西歴八八〇年前後と推定されよう。円宗は、願暁と共に醍醐寺聖宝（八三二―九〇九）の三論学の師であり、貞観・元慶の頃に活躍した人物で、維摩会や最勝会の講師を勤め、少僧都まで昇った。当代の代表的三論学者であろう。その学系は、本書によれば、東大寺玄覚を自己の師であると述べ、その玄覚は、智光の弟子である靈叡から受学したとしている。つまり、智蔵―智光―靈叡―玄覚―円宗となる。著書としては、『一乗仏性慧日抄』（大正蔵七〇所収）が伝えられているが、目録（東域）では『開権顕実章』三巻も、香山宗の著としている。

また撰号にある「香山」については、先の論文では『大日本古文書』巻三・四にみえる香山寺・香葉寺・香山薬師寺や、春日山中の香山（花山？）に建っていた香山寺（堂）、それに『三代実録』の貞観・元慶の条にみえる香山寺を考えた

のであったが、それらの同異不明のまま、春日山中の香山寺を一応予想した。それは、円宗が、東大寺玄覚の門下と自称することから、元興寺僧と伝えられていながらも、東大寺にも何らかの関係があったものと推察したのである。今、更に一二のことを付け加えるならば、<sup>(2)</sup>先ず、右の三寺は、各々別の寺であるということが上げられる。<sup>(3)</sup>そして、第一の香山薬師寺などの称は、奈良朝で用いられ、円宗の頃、つまり平安時代には、新薬師寺と言うのが通例となっていたこと。第三の『三代実録』にみえる「香山の寺」は、大和国高市郡の香山寺(カグヤマデラ・コウサンジ・コウセンジ)のことである、という点である。この寺は、現在、橿原市寺戒外町にある興善寺であるとされる。そこで、円宗の活躍時期と香山という呼称の一般性との関係で考えた場合、第三の大和の香山寺が、最も可能性あり、ということになる。円宗が、公の場において名を挙げるのは貞観時代であり、清和天皇の御世であった。清和天皇は熱心な奉仏家であり、晩年は、大和・摂津の名山を巡り、その時、香山寺にも行幸されたという。清和天皇の在位中は、真雅(八〇一―八七九)が随侍し、その後、宗叡(八〇八―八八四)が常に侍し、巡幸にも随ったとされる。真雅は、空海の俗弟で、空海の遺囑により東大寺真言院と弘福寺を管し、承和十四年(八四七)には東大寺別当となった。この年に、醍醐寺を開いた聖宝は、真雅について東大

寺で出家得度した。この頃から約二十年の間に、聖宝は、三論・法相・華嚴を学び、三論は、円宗・願曉にいたのである。これら真雅と清和天皇・聖宝、聖宝と円宗との関係からすれば、円宗と真雅・清和天皇とのつながりも予想されて来るのである。この件についての詳細は、今後の検討に俟ちたい。

次に内容について概観すると、表題の通り三論宗の人々の伝記と系譜を述べたもので、インドでは、文殊・維摩を祖師(高祖)とし、馬鳴・竜樹・提婆・無著・世親・青目・清弁・護法を聖師として列挙する。このインドの人々の因縁伝記は、後半の問答体の部分で述べられる。中国では、羅什・真谛三蔵を挙げ、以下羅什門下(八宿)・曇濟・道朗・僧詮・法朗・吉蔵と次第する。ただ、実際に伝記を述べるのは、羅什・道生・道融・曇影・僧叡・吉蔵である。ここで示している曇濟から吉蔵への系譜は、我国の伝統説として定着し近年まで用いられていた説である。また法朗門下に二十五師ありとして一字名を列する。この中には吉蔵・慧均も含まれるが、この説は、慧均の『大乘四論玄義』に依ったもののごとくである。<sup>(4)</sup>さらに吉蔵の弟子としては、智凱・智命・智実・寂法師・慧遠の五人を数える。そして中国の三論学者の最後に、唐の法琳を上げて、その伝記を述べる。以上中国の人々は全て四十五人である。

次に日本への伝来を述べ、慧灌・智蔵・道慈の順で、その師資の相続を記している。日本の部は人脈の揭示のみであるが、従来凝然の伝えるものとして伝承されている三論宗の三伝説を明示していることは注目されよう。そして先に触れた円宗の師玄覚は、八嶋聖皇の命により入唐帰朝して灯を伝えたと言う。

後半の問答体の論述では、文殊・維摩・馬鳴・龍樹・提婆・清弁の伝を述べ、先に掲げた無著・世親・護法という法相宗所依の人々をも、三論の祖師と数える理由。龍樹は、諸宗（華嚴・天台・真言）の祖師でもあり、三論は菩薩の論であるが、龍樹は仏勅を奉じて論を作ったこと。そして通じては華嚴・法華・涅槃等の一乗経に依拠し、別に般若経に依拠していること。法相宗において、般若を第二時不了義とする説を批判し、三論は、中道仏性を論宗とし、唯一仏乗悉有仏性を根本とすることを、法相宗との対論によって主張している。これらの主張と立場は、彼の『一乗仏性慧日抄』の、

此無所得一乗之宗、遠憑寂光文殊竜樹、近承提婆清弁等聖、依涅槃等経中観等論、顕於五種仏性、開示一切衆生悉有仏性

(大正七〇・一七三中)

と述べることに軌を一にする。

以上のことから、本書製作の背景には、恐らく法相・華嚴・天台・真言の各宗、特に法相宗に対する意識が働いている

香山宗撰『大乘三論師資伝』（伊藤）

と考えられる。諸宗の確執の中にあつて、三論宗の立場を明瞭に主張せんとした書であることは間違いないからう。しかも、現存資料としては、最も早い時期のものであり、三論宗では広く用いられ、南都諸宗に対しても、この種の主張の嚆矢であった可能性もあつて、貴重な資料といえよう。

なお翻刻に際しては、全て通行の字体とし、使用の便を考へ句点を施し改行を加え、簡単に項目を示した。また本文中の(1才)(2ウ)等は、原本紙数の表裏の末尾を示し、行間の括弧書は筆者の補注である。

- (1) 拙稿「香山宗撰『大乘三論師資伝』について」(印度学仏教学研究第二十七卷第二号、昭和五十四年)
- (2) 以下の「香山」については、日本女子大学の新川登亀男先生の御教示に負うものである。
- (3) 福山敏男「新薬師寺と香山寺」(『日本建築史研究』昭和四十三年所収)参照。
- (4) 拙稿「三論宗学系史に関する伝統説の成立」(駒沢大学仏教学部研究紀要第三十六号、昭和五十三年)

内題

大乘三論師資伝

香山宗撰

夫仏法伝来。必有縁由。諸宗分流。非無依憑。且就三論示其稟。

初起天竺。文殊浄名。以為祖師。馬鳴龍樹提婆無著世親青目清弁護法。如此大士。次為聖師。故頌曰

文殊浄名為高祖 馬鳴龍樹与聖天

無著天親及青目 清弁護法為聖師（1才）

羅什伝

名僧伝卷二（欠）

高僧伝卷二

開元録卷四

次在漢地。晋安帝世。天竺三蔵鳩摩羅什。秦言童寿。弘始年中。常安大寺。訳出般若法花等經。中百等論。具伝無相之玄宗矣。所以天竺辰旦。皆礼無相仏也。故高名兩伝。開元録等。皆云。羅什法師。父天竺人。母龜茲国白純王妹。什母羅什在胎之日。往詣天竺雀梨寺。設齋供養。天竺齋法。初夜令僧尼衆。以清浄音。歌四阿含。（1ウ）中夜令清信士女。讚說毗尼。後夜使白黒道。誦仏阿毗曇。什母忽然自解修環往。復難問之辭。必窮洩致。衆咸歎異。其寺上座羅漢。達摩瞿沙曰。舍利弗在胎。其母得四無碍弁。此優婆夷。忽難誦杭。壞聖子。故羅什年七歲。出家。従師誦經。日一千偈。三万五千言。年九歲。遇罽賓三蔵罽頭達多。受誦雜藏中長二阿含。凡四百万言。罽賓大王。（2才）請入宮裏。大集外道論師。令相攻難。什乘澡而悉挫之。国王歡喜。即給外国之上供。粳米三斗。麩三斗。蘇六升。差大僧五人沙弥十人。營視掃灑。年十二歲。至月支。北山上有一羅漢。謂什母曰。汝子非常人也。大興仏法度無数人。進到沙勒国。喜見三蔵相遇。歡喜。勸国王曰。此沙弥智徳。殆難測尽。共請令講。王甚相喜即設無遮大会。昇（2ウ）無畏座令講轉法輪經。辭□清拔。功難弥堅。国内称衆旧学恥励。羅什説法之暇。乃尋訪外道経書。善学業陀舍多論。多明文辞製作問答一等事。又博覽

四韋陀典及五明諸論。陰陽星算莫不スト云。尽妙。草車王之子兄弟二人。捨国入道。兄字須利耶跋陀。弟字須利耶蘇摩。固師沙勒国羅漢。羅漢亦名蘇摩。什亦宗事シテ既為同学。稚(3才)相視厚。則聞蘇摩王子說阿耨達經。問答研覈シテ方知理有所歸。広求義要。受初中百二論十二門論等。広弘大道。後ニテ往闍賓為其本師磐頭達多。具說一乘妙義。師感悟心眼。即礼什為師。言我是和上ハ小乘師。和上ハ是棄大乘師矣。西域諸国。眼什神俊。咸共崇仰。每至講說。天竺諸王長跪シテ座側。令什踐而登焉。羅什既道震西域。声被東川。時府堅建(3ウ)元十三年正月。太史奏云。有星圓外国分野。当有大德聖人。入輔中国。堅曰。朕聞西域有鳩摩羅什。將非此耶。即發七万兵。追請羅什。弘始三年三月。有樹連理生干広庭。逍遙園慈變為痒慈夜反。以為美瑞。謂智人入。十二月二十日至于長安。即以正月就於翻經所。經年数首尾五年。什每為叡論西方辞体。商略同異云。天竺国俗甚重文藻。其宮商体韻。以入絃為(4才)苦善歎。凡觀國王必有贊儀。見仏之儀。以歌歎為尊。經中偈頌皆其式也。但改梵為秦失其蔚藻。雖得大意。珠隔文体。有似嚼飯与人。非徒失味乃令嘔噦也。什嘗作頌贈(沙)門法和云。心山育明德。流薰万由延。哀鸞鳴孤桐上。清音徹九天。凡為十偈。辞喻皆爾。名伝云。心山育德薰。流芳万由延。哀鸞孤桐。清嚮徹九天。什嘗歎曰。吾若著筆作大乘阿毗曇。非迦旃(4ウ)延子比也。迦旃延子者。造六足阿毗曇大論義師也。今在秦地深識者寡。析翻時沙所論。乃博然而止。唯為姚興著実相論。注維摩。大乘菩薩三種入道觀等。為遠法師作大乘義章三卷等。並皆(欠字)定成章玉所刪改。辞喻婉約莫非玄奧。臨終之日。与衆僧告別曰。自以闇昧謬充傳記。今於衆前發誠実誓。若所伝無謬者。当使焚身之後舌不焦爛。以七年八月二十日。卒于長(5才)安。即於逍遙園。依外国法以火焚屍。薪滅形碎。唯舌不灰猶存。羅什之母第三果聖。王從女白純王女。即聖意阿羅漢。羅什正身天竺諸国。称言無相仏。無三十二相八十種好実徳之仏。故称無相仏。

真諦三藏傳  
統高僧傳卷一  
開元錄卷七

次梁武帝末世。天竺三藏婆羅末陀。梁言真諦。訳出順中論等。(イ)粗述中宗。神異非一。故起論義林云。真諦或敷坐具踟趺水上。或居荷葉以渡大海。其例甚(5ウ)多。具如彼弁。次羅什入室有八。

竺道生傳

名僧傳卷十(欠)  
高僧傳卷七

一宋尋揚(揚)廬山西寺竺道生。对釈法顯闡提無姓(性)之隘執。造仏性当有等論。始開皆有仏性之妙旨。故高名二伝云。約而幼穎悟聡哲若神。其父知非凡器。愛而異之。竺法護汰為師以改俗。伏庸受業。既踐法門俊思奇拔。研味句義即得解説。年在志學便登講座。吐納問弁辭清珠玉。当世名徳慮挫辭窮。莫敢抗敵。年至具(6才)戒器鑿日深。性度機警神氣請穆。周遊長安從什受業。関中僧衆咸謂神悟。依泥洹經。立一闡提皆得成仏。一時旧學以為邪説。遂顯大衆擯而遣之。生於衆中正容誓曰。若我所説反於經義。請於現身即表病疾。若共実相不相違背。願捨壽時授師子坐。言竟扞衣而逝。後涅槃大本經。果闡提悉有仏性。与前所説令。(イ)即廬山精舎昇于法坐。視聴之衆莫不抗悟。法席將畢辭所願。遂墜塵尾率。顔(6ウ)色不異猶若入定。京邑諸僧内慚白(自)因追(虫)而信眼(眼)。其神鑿之至。(汲)二級群林慮釈道融。頓降(イ)施讎隆興弘日。故兩伝云。十二出家。厥師愛其神彩。先令外學。往村借論語竟不齋婦。於彼已誦。師更(借)供本副(覆)之不貴一字。内外經書闡遊心府。俄而師子国有一婆羅門。聡明多學。西土俗書罕不披読。為彼国外道之宗。聞什在関大行仏法。乃謂徒曰。寧可使釈氏之風独伝震旦。而吾等正化不洽東国。遂馱負書來入長安。姚興見其口眼(7才)便僻。頗亦惑之。婆羅門乃啓興曰。請与秦僧換其弁力。隨其優者。即伝其化。興即許焉。時関内僧莫敢当者。什謂融曰。吾徒外道換言彼勝法輪摧軸。豈可然乎。如吾所覩在君一人。融曰承旨。姚興自出。公郷皆会四遠妙集。融与婆羅門換言論我。融弁翻玄。彼遂不及。心愧悔伏頂礼融足。徒然而去之。

釈道融傳

名僧傳卷十一(欠)  
高僧傳卷六

積曇影伝

名僧伝卷十二(欠)

高僧伝卷六

積僧叡伝

名僧伝卷十二(欠)

高僧伝卷六

積曇影。什至長安即往從之。什謂興曰。昨見影公亦是風流標望之僧。興勅住逍遙園助什訳経。高德如伝。

四魏群長樂積(7ウ)僧叡。悟在未然明通積教。故兩伝云。[凶]樂出家。依僧賢法師為弟子。謙虚内敏

覺与時競。至年二十二。聽僧朗法師講経。屢有譏難。即謂賢曰。叡比格難。吾累思不能通。可謂賢弟

子也。姚公問嵩。叡公如何。答。実鄴衛之松柏。即勅給俸郵吏力人拳。後謂嵩曰。乃四海之標領。何

獨鄴衛之松柏。昔竺法護出正法花経。受決品云。天見人人見天。什至此曰。語異義同。但言遇質。叡

曰。将非人天妄接兩得相見。什喜曰。実然。領悟標出皆此類也。

五京師東安(8才)寺積慧嚴。

六宗道場寺積慧觀。

七藍田積道恒。

八石羊寺積僧肇。具美高法並如兩伝。

次吳崇山草堂寺曇齊。

次撰山西霞寺道朗。経於八宿以成業也。

次止觀寺僧詮。

次興皇寺法朗。

次有二十五師。謂確慧寂怖披明盛亘哲持滿開腹宝修羅宝仲短晶衝学蔵均旻。

於中蔵公。広製章疏。盛伝於世。故碍及伝等伝。仏涅槃後像法之末。有一応真大士。厥号吉蔵。誕生

震旦。独歩一人。斯乃四依之一士也。俗姓胡氏。是颯末建輔相之子。粵(8ウ)自齠亂之年。夙涉文

吉蔵伝

統高僧伝卷十一

智光『浄名支論略述』  
卷一本

香山宗撰『大乘三論師資伝』(伊藤)

德。至于童子之（虫食）更表貞淳。聰叡絶倫。智弁有珠。仍以宿殖。早厭塵俗。梁代之初。詔度僧尼。時使人一見悟之。此子年齒雖幼。風骨甚奇。若住釈門。必為棟梁。因聽落髮。止與皇寺。堅守戒珠。威儀無缺。如々為家。無貪為榮。凡有所說大小聖教。並一聞將尽。再覽之後無所遺。衆咸敬異。乃令覆述具竭所聞。不漏一言。即美聞芳声從茲發爽。興皇大師恒曆志焉。（47）大師年二十一受具。坐夏学律。五篇七聚之宗。亦一遍斯得平。（平）欣然遂（9才）志修菩薩道。持戒如護浮囊。行施不恡金玉。四事供具隨時撰受。面不淨物不以近身。蓬門朱戶其意並斎。物我衆生心皆平等。外法俗典眼不復看。琴瑟筮篴耳不欲聽。鼻根功德不嗅蘭葱之香。舌嘗於味不敢殘宿之難。（饌）雖復聽習大小諸宗。而常以無所得大乘之義為先。訪求真空。見不見於空有之間。（問）考察玄微。聞不聞於生滅之際。決衆叡於性海。建至覺於迷津。然即統括群經。無行言而不究。檢察衆論凡一事而不了。及乎隋氏（9ウ）王天下也。長安宮建日嚴精舍。乃請大師止住重閣。四事供養隨時備足。遂承揚光之請。製作淨名玄等。凡先後所製大乘玄疏八十余部。每製一尺急々然也恐不終訖。一部了已歡喜称慶云。用此報四恩。可謂法雷振於広沢。惠雲布於迷塗者也。大師常以國家等諸縑素所施財貨錢帛之流。當諸功德兼給貧窶。一無貯畜隨得即散。是以求法沙門高捐調御之（10才）師。懷靈之類仰敬所憑之尊。大師年七十八。及將終日製死不怖論墜筆而卒。猶如入定。形色不及。弥復光顯。即天雨花。異香遍空。衆多偉人。（服）皆眼錦衣。種々花宝。莊嚴房宇。香花幡蓋。并奏音樂。唯二日間。如此而已。至于三日。聞奏恩勅。葬事所須。並令官備。種々飭具。不可称言。僧尼之徒。及諸公属。千万衆庶。相從葬送。至於墓所。即積香木。以茶毗之。（10ウ）道俗欽慕。憂愁無數。其烟五（彩）。高拳雲天。日月掩光。細雨灑地。已茶毗後。收取身骨。起率都婆。敬事如仏。於空中有声。唱言大衆。当知其吉藏者。歴劫侍仏之上人也。具如碑及伝。并仙光淨名玄法花玄記



等。

吉藏門下 有五入室。大德持寺積智凱。智命。智実。寂法師。慧遠師也。具如大乘四論玄等。

積法琳傳

法琳別傳

統高僧傳卷二十四

破邪論序

後武德年中。有積法琳者。芸業優瞻。憤素必該。立号詞林。時称学海。前(11才)秘書監虞者南者。<sup>(世)</sup>集法師之文。為之叙引云。法師小学三論。名聞朝野。長該衆典。声振殊俗。威儀肅穆。介節淹通。<sup>(マ)</sup>智連清輪。度擿微隱。北地方春。藏用顯仁之量。如愚若納。外聞内明之巧。固然智周側海道垂弥天。<sup>(次也)</sup>豈止操類山儔神侔<sup>(等也)</sup>庾亮而已。爾其文情。乃典而不野。麗而有則。猶八音之並奏。等五色以相宣。道行則納正見於三空。極群生於八苦。既学(11ウ)博而心下。亦守<sup>(卑)</sup>早而調高。実積種之棟梁。善人之別儀者<sup>(マ)</sup>矣。加以賑乏扶危先人後已。重風光之弘照林圃。愛山水之負帶煙霞。迥称巖崖則弊虧日月。空飛戶牖則然納風雲。採五芝而偃仰。遊八禪而寢息。餌松木於溪澗。披薜荔於山阿。疊障危岑長松臣壑。野老之所栖盤。古賢之遊戲。<sup>(踐)</sup>莫不身至自視攀穴指歸。時大史<sup>(太)</sup>令伝突。進止仏法事十有一条。法師(12才)恐震布鼓竊比雷門。中庸之人頗成阻惑。撰破邪論一卷。李仲卿製十異九迷。劉進喜造顯正論。輕侮大聖。昏冒生靈。妄引典謨。飭非為是。法師慨其無識。製弁正論八軸。若披雲而見日。同迷蹤而得道。邪弁卷舌住自閉仏法之鍵。琳是其人。具如別伝。

并而可言四十五師唐興如是。故頌曰

童寿真諦伝聖語 道生道融与曇影 (12ウ)

僧叡慧嚴及慧觀 道恒僧肇為八宿

次齊并宿子道朗 次子僧詮与法朗

後三十子及法琳 是四十五為人師

慧灌(第一伝)

後伝日本。維人王第三十磯嶋金刺宮欽明天皇治天下天國押開広庭天皇之代。百濟國献仏法。自爾以後經世七代。過年九十余歳。雖有仏法未有弘宣。第三十七難破長浦豊前宮孝徳天王治下天萬豊日天皇。(皇)乃請元興寺僧(13才)高麗國慧観法師。令講三論。其講了日。天皇即拜任以僧正。是則日本僧正第二。同寺三論観障僧正其第一矣。凡於此朝仏法住持始。由先任僧正慧観(勳)。從此以後福亮法師等九僧正。皆此元興寺三論宗也。神泰法師相次伝之。宣融法師。玄耀法師。西大寺玄叡律師。元興寺道唱律師。皆其裔也。私云西大寺玄叡律師。元興寺道唱律師。皆受習神泰師為其弟子。

智蔵(第二伝)

次入唐學生吳智蔵僧正。亦此元興。業涉内外学道三蔵。於法隆寺伝三論。仙光院智光法師。礼(13ウ)光法師。相受伝之。靈叡法師。品惠法師。神護寺一登法師。受仙光伝。東大寺漸安法師。玄覚法師。元興寺薬宝法師。同受叡公。隆応法師。願曉律師乃其後也。

道慈(第三伝)

次遣唐留学道慈律師。学縁六宗三論為要。本是元興寺。自唐還來建大安寺。興三論旨。慶俊大僧都。善議法師。受律師教。勤操僧正。安澄法師。受議徳伝。西大寺実敏大僧都者。澄之入室也。(ナ)次桂畏八嶋聖皇。特降綸旨玄覚法師。遣唐(14才)請益。法師含忠訪道。帰朝伝灯。今吾三代之祖師也。自古于今。遍於諸寺伝者既多。恐繁不具。已上日本傳來也

文殊

問。聖人甚多。何故文殊為無相祖師。答。智度論第六云。文殊白仏。大徳我念往昔于光明世界。師子音王如来。三乘渡生。(ナ)其國諸樹。出清浄法音。説空無相無作不生不滅空無所有。其仏滅後有二菩薩。一名喜根二名勝意。喜根法師。不別善惡。一切諸法但説無毒即道空理。勝意法師。持戒清浄。(14ウ)讚歎少欲常行頭陀。是時勝意聞説喜根経蹟即道。乃至諸法不生不滅空無所有。其心不悅。向道俗言。

說外道語虛誑多人。時喜根念。此人愚瞋惡業所覆當墮大罪。我為說妙。今雖無益為作後世<sup>四</sup>仏道因緣。一心說偈。姪欲即是道。恚癡亦如是。如是三法中。無量諸仏法。說如是等七十余偈。三万諸天得無生忍。万八千僧不着諸法。皆得解脫。勝意菩薩。即陷地獄。受無量千万歲苦。出生人中七十四万世常被<sup>(15才)</sup>誹謗。無量劫中不聞仏名。罪薄聞法入道捨戒。如是六万二千世常捨戒。無量世中作僧。雖不捨戒諸根闇鈍。爾時勝意即戒身是。若求三乘捨諸苦者。不応破諸法相而壞瞋恚。仏問文殊。汝聞諸偈得何等利益。答。我聞此偈得乎衆苦<sup>(畢)</sup>。生々得利根智恵。能解深法巧說深義。於諸菩薩最為第一。如是等名巧說諸法相。是名如実巧度<sup>云々</sup>。諸究竟教。皆說真空為至極宗。由是文殊恒據真空中道<sup>(15ウ)</sup>妙宗。為伝灯主。

問。今檢此文利害分別。何故慈恩師。云姪欲即是道者。是不了義。今之學者。随多生誘。答。無有恵眼致誘如是。仏藏經云。舍利弗。若有比丘。於空無所得法。即自覺知無疑無悔。我說此人為淨梵行。雖現未得無余涅槃。我記是人。弥勒仏時當在初会。爾時弥勒歡喜三唱。是人能於釈迦牟尼仏法中。成就無所得忍。若在家出家成就此無所得忍。我記是人妙得涅槃。若有人聞空無所得法即時驚畏。是人<sup>(16才)</sup>可慙。無有救者無有依者。直趣地獄。何以故。於仏教中驚疑畏者。是人即為具足惡道。我常常自說。有所得者是惡道分<sup>上</sup>。准此等教善応審耳。

問。淨名菩薩其事何耶。答。維摩經下卷云。国名妙善。仏名無動。是維摩詰於彼国没而來生此<sup>上</sup>。疏云。外国称毗摩羅詰。羅什僧肇翻為淨名。淨徳内統嘉声外滿。天下藉甚。故曰淨名。豈止降魔勞怨。制諸外道。亦五百声聞<sup>(16ウ)</sup>自称不敏。八千菩薩失对當時。道生等翻為無垢称。真諦云。具心云阿毗摩羅詰利帝。此云滅垢鳴。鳴猶名義。此是在家菩薩。示同塵俗。而心栖累表。世所希有。故偏受名。

仏諭經説。浄名姓王氏。別伝云。□<sup>雷</sup>氏。父名那提。此云智纂。母性釈氏名喜。思惟三昧經云。浄名即金粟如来<sup>上</sup>。浄名玄論云。浄名文殊往古如来。現為菩薩。首楞經云。文殊為龍樹尊仏。<sup>(一七)</sup> 弁跡經云。浄名即金粟如来<sup>云</sup>。於無相宗。不二法門為其主。故以為師也。(17才)

馬鳴

問。馬鳴菩薩等本縁何。答。起信論疏云。馬鳴之名略有三種。一此菩薩初生時。感動諸馬。悲鳴不息。故立此名。二此菩薩善根撫琴。以宣法音。諸馬聞了咸悉悲鳴。三此菩薩善能說法。令諸馬悲鳴垂淚不食七日。因此為名。仏滅度後付法蔵師。故摩耶經云。六百歳已。九十六種諸外道等。邪見競興。破滅仏法有一比丘。名曰馬鳴。善說法要。降伏外道。付法蔵經云。付法第十二師也。大乘起(17ウ)信論記云。月鏡者龍樹古称。曰珠者馬鳴古称。迦葉仏時。有一長者曰転香。女名珠池。各以七宝献迦葉仏。請其嗣息。爾時世尊。告二人言。速去。汝等所請十七日已当得成就。満日夢中彼珠池女日輪入腹。得此吉祥。經九月即生二子。兄名日珠。弟名日鏡。<sup>月歟</sup> 随相立名。七歳出家随仏修法。常作是願。生々処々不相捨離。同学知識建立正法。以此事故此二菩薩。俱行出現。利益衆生。而能開曉猶如雨曜。金剛正智經云。馬鳴菩薩。大光(18才)明仏。竜樹菩薩。妙雲相仏。大莊嚴三昧經云。馬鳴遍照通達無辺如来。竜樹遍度初生如来。甚深道場經云。馬鳴日月星明如来。所造大乘起信論二卷。大莊嚴論十卷。盛伝世也。

龍樹

龍樹之名有四異。一智論云。童龍磨者龍。<sup>(一七)</sup> 馥力又是樹遍名。<sup>(一七)</sup> 別名阿周那。<sup>(一七)</sup> 如此間梨李樹等。二順中論云。那伽夷離淳那。此云龍勝。三中論序疏云。那伽馥力又。此云龍樹。四西域記云。那伽閼刺樹那。<sup>(利)</sup> 此云龍猛。伝云。智恵日已頽。斯人令再(18ウ)耀。世昏寢已久。斯人悟令覚。外国為之立廟。事之若仏<sup>上</sup>。楞伽經云。如来滅度後。誰当持正法。大恵海諦聽。<sup>(一七)</sup> 我乘内証智。妄覚非境界。如来滅度後。

## 提婆

未來當有人。於南天大國中。有大德比丘。名龍樹菩薩。為人說大乘無上法。能破有無見。証得歡喜地。往生安樂國<sup>上</sup>。摩耶經云。七百歲已。有一比丘。名曰龍樹。善說法要。滅邪見。憚然正法炬<sup>上</sup>。付法藏經云。付法第十四師<sup>上</sup>。龍樹傳云。出家受戒。九十日中誦遍三藏。雖知實義未得通（19才）利。周遊諸國更求深經。於闍浮提遍求不得。遂入海宮。九十日中誦通方等。還出天竺造若干論。大弘佛教摧破異途<sup>上</sup>。西域記云。憍薩羅國王。名曰引正。為龍猛菩薩。鑿黑蜂山。建立伽藍。長廊步擔。崇台重閣。閣有五層。層有四院。並建精舍。各鑄金像。量等佉身。妙窮工思。自余莊嚴。唯飾金寶。人力疲竭。府庫空虛。功猶未半。心甚憂感。龍猛謂曰。大王何故。若有憂負。王曰。輒運大心。（19ウ）敢樹勝福。期之永固。待至慈氏。功統未成。財用已竭。每懷此恨。坐而待旦。龍猛曰。勿憂。崇福勝善。其利不窮。有興弘願。無憂不濟。今日還宮。當極歡樂。後晨出遊。歷覽山野。已而至此。平議營建。王既受誨。奉以周旋。龍猛神藥。滴諸大石。並變為金。王遊見金。心口相賀。廻駕至龍猛所曰。今日由遊。神鬼所惑。山之中時見金聚。龍猛曰。非鬼惑也。至所感故有此金。（20才）宜時取用。濟成勝業。遂以營建。功畢有余<sup>云</sup>。具如彼弁。

阿梨耶提婆。此云聖天。又伽那提婆。此云小一目天。具如傳。故云。此菩薩者。南天竺人。博識洵攬。才辯紀倫。唯人不肯。信因其言。彼國之中有大天神。鑄黃金像坐二丈。号曰大自在天。人有求願。令現如意。提婆詣廟。求入得見。主廟者言。天像至神。見者迷悶。但（20ウ）門求願。何須見耶。提婆言。如汝所說。是令我見。若不如是。豈是吾見。主者開門。時人驚奇。追入廟者。數千万人。提婆既入。天像振動。怒眼視之。提婆問天神。則神矣。何其小也。當以精靈憾人。智德伏物。而假黃金以自身多動。頗梨以縈惑非所望也。即便登梯鑿出其眼。時諸觀者。感驚倚之。提婆曉言神明遠大。以近事

試冷汝等去。吾不神辱而出。即其(21才)夜求諸洪備。明日清旦。敬祠天神。其所發言。聲之所及。無不嚮心。一夜之中。供具精饌。有物必備。大自在天。貫一肉形。高數丈。左眼枯沒。而木在坐言。汝所供饌。尽喜美矣。豈我所須能以見与。真上施也。提婆言。唯命是從。神言。我所乏者。左眼能於我者便可出之。提婆言。敬如天命。則以左手。出眼与之。出而隨生。索之不已。從旦終朝。出眼數万。眼遂不出。天(21ウ)神讚言。善哉摩納真上施也。欲求何願。必令如意。提婆言。我稟明於心不假外。唯恨悠々童蒙不信我言。神賜我願必令我言不虛沒之。唯此為請餘無所須。神言。必如所願。於是而退。詣龍樹菩薩。出家受学。摧破外道。度千万人。造百論等。破神頭正。付法藏傳亦同之。云付法第十五師<sup>云々</sup>。慈恩傳云。憍薩羅国。城南不遠。有故伽藍。龍猛止。此国王引正。珍敬龍猛。供(22才)衛甚厚。時提婆菩薩。自執師子国來求論難。造門請通。門司為白。龍猛素弘其名。遂滿鉢盛水。令弟子持出示之。提婆見水默而投針。龍猛見已深加喜歎曰。水澄滿以方我德。彼來投針遂窮其底。若斯人者。可与論玄議道。囑以傳燈。即令引入坐訖。發言往復此俱歆。猶魚水相得。龍猛曰。吾衰遇矣。朗耀慧日其在子乎。提婆避席礼龍猛足曰。某雖不(22ウ)敏敢承慈訓。<sup>乃至</sup>与上羅漢論議。至第七轉羅漢杜口。竊還神通往都史天。請問慈導。即為釋之因告言。彼提婆者。植功曩久。當於賢劫成等正覺。汝勿輕也。還解前難。提婆曰。此慈氏菩薩義。非仁也自智所得也。羅漢慙服避席礼謝<sup>云々</sup>。西域記云。波吒釐城。請学大等辭屈外道。不擊捷稚。十二年<sup>云</sup>。提婆菩薩。摧破異道。初擊捷稚。並具如彼造百部百論。(23才)今現行者。百字論經。百論。廣百論。破外道小乘涅槃論等。具如引傳。婆毗吠迦。此云清弁。燈論云。分別明菩薩。佛滅度後千年間出世。本是常寂光土極尊。故基理趣分疏云。佛滅度後九百年中有應身大士。厥名清弁。身同教論之儀。示無朋黨之執。心處釋迦之理宗。無偏

滯之情。時人号为妙吉祥菩薩。神異聖德廣如別傳<sup>上</sup>。(23ウ)妙吉祥者即文殊也。西域記云。南印度  
 大安達国。城南不遠有大山巖。清弁論師。住阿素羅宮。待慈氏成佛之處。論師雅量弘遠至德深遂。  
 外示僧法之服。内弘龍猛之学。聞摩揭陀国護法菩薩。宣揚法教。有懷談議杖錫而往。至婆吒釐城。  
 護法菩薩在菩提樹。論師即命門人曰。汝行詣菩提樹護法菩薩所。如我辭曰。菩薩宣揚遺教。導誘迷  
 徒。仰德虚心為日(24才)已久。然以宿願未承遂乖礼謁。菩提樹者。攝不空見。見当有證称天人師。  
 護法菩薩謂其使曰。人世如幻身命若浮。渴日勤誠未遑談議。人信徃復竟不会見。論師既還本土。静而  
 思曰。非慈氏成佛誰決我疑。於觀自在菩薩像前。論随心陀羅尼。從粒飲水時歷三歲。觀自在菩薩乃現  
 妙色身。謂論師曰。何所志乎。对曰。願留此身待見慈氏。觀自在菩薩曰。人命危脆世間(24ウ)浮  
 幻。宜修勝善願生都史多天。於斯礼对尚速待見。論師曰。志不可奪願不可貳。菩薩曰。若然者宜徃馱  
 耶羯磔迦国城南山巖執金剛神所。至誠誦持執金剛陀羅尼者当遂此願。論師於是徃而誦焉。三歲之後神  
 乃謂曰。何所願若此勤勵。論師曰。願留此身待見慈氏。觀自在菩薩指遣來請成我願者。其在神乎神乃  
 授秘方。而謂之曰此巖石内有阿素洛宮。如法行請石壁当開。開即入(25才)中可以待見。論師曰。幽  
 居無觀詎智佛興。執金剛曰。慈氏出世我当相報。論師受命專精誦持。復歷三歲初無異想。見芥子以擊  
 石巖壁。豁而洞開。是時百千万眾觀觀忘返。論師跨其戸而告眾曰。吾久祈請待見慈氏。聖靈警祐大願  
 斯遂。宜可入此同見佛興。聞者怖駭莫敢履戸。謂是毒蛇之窟。恐喪身命。再三告語唯有六人從入。論  
 師願謝時眾從容而入。入之既已(25ウ)右壁還合。眾皆怨嗟恨前言之過<sup>云々</sup>。所造掌珍論二卷。般若燈  
 論十五卷。盛傳世也。

問。既知高祖之本緣起。無著世親護法菩薩。法相所依。何為今師。答。無著菩薩龍樹門人。世親護法

提婆弟子。所以為師。問。何以知爾。答。無著釋龍樹中論。名順中論。即云。故師阿闍梨言梵云阿闍梨耶。此云親教師也。

世親即釋提婆百論。護法注釋廣百論云。稽首妙惠如日論。垂光破闇開(26才)淨眼。遠布微言廣百

論。百聖隨行我當釋云々。故高野大僧正。製大安僧正影讚云。公紫震殿。拳旗鼓曰。三論是祖君之宗。

法相即臣子之教。何者無著釋中觀天親釋龍猛之中觀護法注提婆之百論一本。護法注廣百。並云歸命阿闍梨耶故。時敵宗名將刃衄旗靡。皇帝歎

之即任少僧都。兼造東寺別當云々。故三大士以為今師。問。若爾玄奘亦傳真空妙門。何不為依。答。亦

得為師。故翻廣百畢造後頌曰。三藏法(26ウ)師。於鷲嶺北得聞此論。隨聽隨翻。自慶成功。而說頌

曰。聖天護法依智慧。為挫群邪制斯論。四句百非皆殄滅。其猶劫火燎纖毫。故我殉命訪真宗。欣遇隨

聞隨譯訖。願此速共諸含識。俱昇無上菩提上。故十住心論捨頭要云。三解脫門大般若等。顯諸法空無

相等。皆是文殊三摩地法曼荼羅。故六波羅蜜經云。令文殊受持所說般若藏。龍樹菩薩依此般若藏。依

中觀十二門二小三解脫(27才)中道正觀。龍樹弟子提婆菩薩作百論。無著菩薩造順中論。世親菩薩作

百論釋。清弁菩薩造中論釋。名般若燈。護法菩薩造廣百論釋。唐三藏玄奘法師譯傳大唐。羅什三藏譯

青目作中觀論釋。以為四卷。吉藏法師。依中百十二三論。廣造章疏。盛傳大唐。入唐學生智藏道慈法

師等受傳此問。是名三論宗。是此名人別。文殊師利菩薩約法曰大般若波羅蜜多經。如此經論等所詮無

量教義等。悉攝文殊(文殊の種子)□(27ウ)真言云々。真言云々。

問。既知為法相之祖師未明餘家。答。如來滅後龍樹海宮誦出花嚴。依之立宗如彼宗。弁天台一依中論三

諦建立諸法。故止觀云。歸命龍樹師乃至是高祖師上。真言即依龍樹所造發菩提心論及摩訶衍論案立宗

義。故真言云。普賢之次第三阿闍梨也。仍影讚云。況復祖宗是一法流昆季云々。故知龍樹諸宗之祖師乎。

問。所明三論者何。答。一者中論。二者百論。三者十二門論。問。聖師(28才)既多誰所造乎。答。



唯前悉之。問。此菩薩論何為大宗。答。龍樹菩薩是如來使。既奉佛勅而作論故。問。何以得知。答。楞伽云。大惠菩薩白佛言。如來滅世後。誰當持正法。佛答言。大惠汝諦聽。我乘內証智。妄覓非境界。如來滅度後。未來當有人。於南大國中。有大德比立。名龍樹菩薩為人說我乘。大乘無上法。能破有無見。證得歡喜地。往生安樂國。又摩耶經云。龍樹菩薩。燈正法炬。燒邪見幢<sup>上</sup>。彌勒讚提婆曰。〔偈提（28ウ）者。曠劫修行賢劫之中當紹佛位<sup>上</sup>。是故此說以為指南耳。

問。若依何教製此論乎。答。通依花嚴法花涅槃等諸一乘。別憑波若作中觀等。問。聖經既多。龍樹何故別依般若造三論耶。答。是般若經。三世佛母顯至極理。故依般若造中論等。問。若言至極。何故法相宗。云般若是第二時不了義耶。答。此說近違自所依師玄奘三藏。遠違彌勒無著等教及大聖說。故三藏云。佛法（29才）大乘般若為本。陶鈞妙相因不具<sup>□</sup>。西域以為鎮國重宇而多秒不傳<sup>上</sup>。子師三藏唯有此言。終無不了義之說也。彌勒菩薩。弁中辺論述至極中道云。有無及有故。是即契中道。長行釋言。亦善付順般若等經說一切法非空非有<sup>々</sup>云。無著菩薩般若論云。出生佛法無与等顯了法界最第一。廣如論也。無量義經說三時教。即顯第三真實理。云摩訶般若花嚴海宮。具弁如經。既違師說。亦害（29ウ）聖教不可依信。

問。般若中道。此即少分非多分。故為不了經。答。苦爾彌勒須順多分。何故付順少分中道。彌勒所說應是少分。唯自害也。

問。我亦依經為不了義。非自立耶。答。即以彼文非大般若故。深密說三時教云。若以供養修習不了義經功德<sup>此</sup>修行了義經功德。如爪上土譬大地土。又牛跡水譬四大海<sup>上</sup>。修行般若實有此理。若許爾者。佛歎衆生何故深歎三世佛母。又修習此功德無辺。自能審耳。具（30才）如別述。

問。此論所宗何耶。答。既稱中論。中道佛性為論宗也。

問。正文云何。答。論初八不即其文也。問。凡論佛性其二義。一少分佛性。三乘教義。二皆有佛性。

一乘經義。今明何耶。答。唯一佛乘悉有佛性以為宗也。問。可稱中道佛性引八不。故文既不言悉有佛性。何云爾耶。答。今云中道佛性者。即是涅槃悉有佛性。問。以何知爾耶。答。即次頌云。能說

(30ウ)是因緣。善滅諸戲論。我稽首禮佛。諸說中第一<sub>上</sub>。言因緣者。涅槃說十二因緣也。故經云。

十二因緣一切衆生等共有之。不生不滅乃至不來不去。以是義故我常宣說一切衆生悉有佛性<sub>上</sub>。敬此說云諸說中勝。問。深密等經。瑜伽等論。說二乘定性一分無性不成佛。何云悉有佛性。答彼據三乘教之

分齊。今明一乘究竟教義。故不相違。問。若爾定性二乘不成佛者有證。若成佛者有明文耶。答。大佛頂(31才)經第四云。爾時世尊告富樓那。及諸會中。漏盡無學諸阿羅漢。如來今日普為此會。宣勝義

中真實義性<sub>勝</sub>。令汝會中定性聲聞。及諸一切未得二空。廻向上乘阿羅漢等。皆獲一乘寂滅場地。真阿練若正修行處<sub>上</sub>。弘流法師疏第三云。此經分明為定性聲聞。及諸一切未得二空諸阿羅漢。皆獲一乘寂滅場

地。故知了義大乘。有人執定性聲聞不得作佛者。是不了義教。乃至有人作一乘章。但取(31ウ)法相枝葉。以廣其文竟。不識一乘之意。以加水故。乳酪醍醐一時俱失。阿練若者。此云無喧。誰處即究竟

涅槃寂滅場也。豈唯悉成佛智常住亦分明也。故經云。世尊如果位中。菩提涅槃真如佛性奄摩羅識空如來藏大圓鏡智。是七種名稱謂雖別。清淨圓滿体性堅凝。如金剛王常住不壞<sub>上</sub>。疏云。大圓鏡智者。離

倒圓成垢淨唯真。鑒周萬有。大圓鏡轉第八識以為其体。既云七種体堅凝(32才)常住不壞。故智不同。唯識所說四智菩提。有為無漏是相統常。非堅凝常。問。悉成不成同俱佛說。何是非。答。非凡

所知唯依聖教釋。故涅槃云。我滅度後依四依說為此子師。世親菩薩佛性論云。故經中說。一闡提人。

有二種身。一本性法身。二隨意身。乃至復有經說。闡提衆生決無般涅槃性。若爾二經便自相違。會此二說。一了二不了。故不相違。故云有性者。是名了說。言無（32ウ）性者是不了說。又云。佛為小乘人。說有衆生不住於性。永不般涅槃<sup>上</sup>。故知諸有定性二乘。及無性者。皆不了也。

問。三論常說第一義空及畢竟空。故慈恩師名曰勝義皆空宗也。何言中道佛性為宗。答。彼第一義空者。即是中道佛性。故涅槃云。佛性者。謂第一義空。空者不見空與不空。又云。佛性是三菩提中道種子<sup>上</sup>。法花等云。究竟涅槃。常寂滅相。終歸於空。不知此旨。輕彼真（33才）空。如五百部。聞畢竟空。如□破心。佛懸記之。故佛藏經云。舍利弗。於未來世當有此丘。不修身戒心惠。是人輕笑如來所說所行。當於第一義空。恭敬供養常樂是行。是諸比丘。輕笑如來所說所行。實際畢竟空法。爾時有苦行比丘。亦共輕笑。爾時有行空者。我讚其善。當爾之時。咸共不能護持重戒。而言諸法自相空何所能作。如那羅戲人種々變現。無所知者見之大笑。何以故。（33ウ）不解戲法其術隱故。生希有心驚怪大笑。如是舍利弗。爾時真實比丘說空寂法。求活命者咸嗤笑。何以故。是人不知佛法義故。聞說空法驚疑怖畏。舍利弗。汝觀此人。於安隱處生衰惱心。於衰惱處生安隱心。廣說如彼。為此般若四百四云。慈氏菩薩言。不應為彼新學大乘菩薩。宣說諸法自相空。若不退地久發大願為彼應說<sup>々</sup>云。三達之記。良無違真空之□。亦在誰矣。

問。誰言經說。（34才）今約三論真空諸法。故楞伽等皆云。勝義空者是惡取空。答。彼約偏空。龍樹菩薩豈惡取空。若爾釋迦即成大過。何指惡空令傳內證。故曉公云。若謂俗有真無惡取空者。即諸經論無非惡取。為此汝師護法菩薩。廣百第六引彼教云。若爾諸法空無我理。隣近險趣。聖不応說。劣慧者前實不應說。而勝慧者隨此修行獲大義利。故為頌曰。空無我妙理。諸佛真（34ウ）境界。能怖衆惡見。

涅槃不二門。論曰求解脫者除妙空觀。無別方便能證涅槃。乃至第十云。衆善莊嚴成無上道<sup>云々</sup>。

問。今除菩薩約未講者云惡取空。答。花嚴傳第三云。唐襄州神足寺釋惠眺。姓莊氏。小出家以小乘為業。馳譽江漢。承勝象王哲公。在龍泉講三論。心生不忍曰。三論明空。講者著空。言訖舌出三尺。鼻眼兩耳並皆流血。七日不語。有伏律師。聞之曰。(35才)汝大癡也。一言毀經罪過五逆。可信大乘方得免耳。乃令懺悔。舌還故入。便拳往哲所。唯聽大乘。哲之云。亡為建七處八會方廣齊。百日既滿。即往香山神足寺。足不踰閭。常習大乘。四時每講花嚴經。用陳懺謝。貞觀十一年四月。在松林坐禪。見有三人。形眼郁雅。詳受菩薩戒。受訖白曰。禪師大利根。若不改心。必信大乘者。千佛出世猶在地獄。聞此重厲涕泗(35ウ)交流。大笑還寺。在講者房前。宛轉嗚咽不能得言。以水洒醒。乃更大笑。繞佛懺悔。用此為常。又勸化士俗<sup>侶</sup>。造花嚴小品等各一百部。至十三年三月。佛前禮懺安然坐化。因此而終。春秋八十余矣。終後七日。林樹白色。過此方復焉。斯亦知過能改。誠可喜也<sup>上</sup>。人身難得豈不慎耶。広如別抄。(36才)

## 尾題

大乘三論師資伝

## 奥書

写本云

天永二年七月廿三日書了

為弘法利生及老後写訖 快覺

建武元年六月一日写了

三論末学聖珍イ一

一校了(36ウ)

裏表紙

康永三年九月十九日於東大寺西室実相院書写了

三論宗憲朝

同廿二日一校了

香山宗撰『大乘三論師資伝』(伊藤)

一八五